

まったく暑さが変わらないまま、9月を迎えます・・・、秋の涼しい風が恋しいです。暑さのせいで、自粛気味な夏休みでしたが、それでも、なんとかやるべきことをこなしたので、自分の中では「合格」ということにします。

さて、9月のお花は、オリエンタルな雰囲気になりました。私がオリエンタルなものに初めて触れたのは、確か小学3年くらいだったと思います。青と白の蓋つきの小物入れでした。

ある夏の日に、部屋の模様替えをした母が、籐のラックの上にその青と白の蓋つきの小物入れをおいて飾っていました。横には、青々としたポトスがあったと思います。

それを見た私は、なんともいえないときめきを感じました。すぐに、その小物入れの中に、ビー玉を入れてもいいか聞いたと思います。とてもとてもうれしい気持ちでした。

今回の花器には、思い出の中の「青と白」つながりで景德鎮を選びましたが、青と白の陶器は、世界のいろいろなところにありますね、マイセンのブルーオニオンも、砥部焼の染付もどれもこれも素敵です。

やっぱり親というのは、知らず知らずのうちに子供に影響を与えているのですね、私の日常の一つ一つを子供たちがどう受け止めているのかはわかりませんが、とにかく、一緒に「素敵」を見つけていこうと思います。

事務長 高橋 圭位子